

普通夜冷によるいちご「スカイベリー」の生育及び果実品質に及ぼす影響

要約

障害果の発生程度、収穫進度、総収量は普通作型との差は認められなかった。また、糖度（果実品質）についても大きな差は認められなかった。しかし、普通夜冷は収穫最盛期中に中休みが発生したため、安定した収穫ができる普通作型が望ましい。

○ 展示のねらい

「スカイベリー」の収益性の確保を図るため、11月下旬出荷開始を目標とした普通夜冷と慣行の普通作型が生育及び果実品質（障害果の発生程度、糖度）に及ぼす影響について検討する。

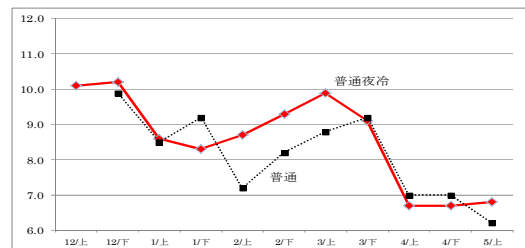
区分	夜冷処理	花芽分化期	定植	収穫始期
普通夜冷	8/20～9/15	9/13 頃	9/16	12/3
普通	—	9/20 頃	9/22	12/17

○ 主な成果

表 1 着果数・展開葉数等の推移（5月上旬時点）

作型	頂花房～四次腋花房			
	花房間葉数	着果数	収穫数	収穫進度
普通夜冷	14.9 枚	24.6 個	23.0 個	93.5%
普通	14.3 枚	27.9 個	27.3 個	97.8%

図 1 糖度の推移



調査の最終時点（5月上旬）では、いずれの作型も四次腋花房肥大期であった。収穫始期に14日間の差があったが、花房間葉数、着果数、収穫進度とも差は認められなかった。

これは、普通夜冷において、二次腋花房の収穫が遅れ中休みになったためである。

糖度は、目標とする9度を超える時期は、いずれの作型も一時期のみであり、両作型とも糖度は安定しなかった。

4月上旬以降、糖度が7度以下になったのは、3月下旬で追肥を中止したことによる影響が大きいと思われる。

○ 今後の方向性

普通夜冷は、中休みの発生が懸念されるため、栽培マニュアルに沿った普通作型を推進する。

食味の安定を図るためには、収穫期の後半まで定期的に追肥を行うなど、施肥体系を確立することが必要である。

実施機関：安足農業振興事務所経営普及部 実施場所：佐野市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315